



変額個人年金保険
『新黄金世代-a』『アンスウィート グラン』『生涯年金NEO プラス』
『アクサ投資型年金<円建>終身』『新黄金世代-CB』
2023年度 特別勘定決算のお知らせ

1. 運用環境 (2023年4月～2024年3月)

【日本株式市場】

日本株式市場は上昇しました。年度末の東証株価指数 (TOPIX) は前年度末比 +38.19% の2,768.62ポイント (前年度末2,003.50ポイント) となりました。日本経済のデフレ脱却への期待、円安による輸出企業の収益の改善期待、東証より株価が低迷している企業への企業ガバナンスの改善勧告がされたこと、また米国株式市場の上昇等を好感し、日本株式市場は日経平均株価が34年ぶりの最高値を更新するなど上昇しました。

【外国株式市場】

米国株式市場は上昇しました。年度末の NY ダウ工業株30種は前年度末比 +19.63% の39,807.37ドル (前年度末33,274.15ドル) となりました。米国のインフレの鈍化が鮮明になってきたことから、FRB (連邦準備制度理事会) による利上げが打ち止めになる一方で、景気が底堅い動きを見せたこと等から、年度前半米国株式市場は上昇しました。その後、秋口にかけて雇用市場の強さから長期金利が上昇したこと等を受けて軟調に推移する局面もありましたが、12月の FOMC (連邦公開市場委員会) の経済物価見通しにおいて2024年に利下げの見通しを発表したことや、米国経済のソフトランディング (軟着陸)、生成 AI 市場拡大への期待等から、米国株式市場は最高値を更新して上昇しました。欧州株式市場は上昇し、独 DAX 指数は +18.32%、仏 CAC 指数は +12.06% となりました。年度前半は ECB (欧州中央銀行) による利上げが株式市場の重荷になっていましたが、米国株式市場の上昇等の影響を受けて上昇しました。秋口にかけては、欧州の景気減速に対する懸念や米国株式市場の下落等の影響を受けて、欧州株式市場は下落しました。その後、米国株式市場の上昇等を好感し欧州株式市場は上昇しました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には0.727% (前年度末0.351%) となりました。日本経済がデフレ経済から脱却したことを受けて、YCC (イールドカーブ・コントロール) の柔軟化 (金利上限の拡大)、超金融緩和政策の修正を行ったこと等から、日本の長期金利は上昇しました。

【外国債券市場】

米国債券市場は、10年国債の金利が上昇 (価格は下落) し、年度末には4.200% (前年度末3.468%) となりました。インフレの鈍化が鮮明となったことから、FRB (連邦準備制度理事会) は政策金利の引き上げの打ち止めをしたものの、景気が堅調な中、インフレを抑え込む為に、FRB は政策金利を「高く、長く維持する」との見方が市場で台頭し、秋口に長期金利は10年金利で5% 近くまで上昇しました。その後、FOMC (連邦公開市場委員会) において利下げの見通しが示されたこと等を受けて、長期金利は10年金利で4% を割り込む水準まで低下しました。2024年に入ると物価の下げ渋りが見られたこと等から、米国の長期金利は反発して年度末を迎えました。欧州債券市場は、独10年国債の金利がやや上昇 (価格は下落) し、年度末には2.298% (前年度末2.292%) となりました。年度前半は、インフレを鎮静化する為に ECB (欧州中央銀行) が政策金利を引き締めていたことや米国の長期金利の上昇の影響等を受けて、欧州の長期金利は上昇しましたが、2023年年末にかけて、欧州景気の減速や米国長期金利の低下等の影響を受けて欧州の長期金利は低下しました。2024年に入ると米国長期金利の上昇等の影響を受けて欧州の長期金利は反発し、年度を通じてはほぼ横這いの動きとなりました。

【外国為替市場】

米ドル / 円相場は、米ドル高円安となり、年度末には151.41円 (前年度末133.53円) となりました。年末にかけて米国の長期金利の低下により一時的に円高となる局面はあったものの、日銀が超金融緩和の修正後も緩和姿勢を維持する方針を示したことから、日米金利差に大きな変化がないとの見方等により、米ドル高円安の展開となりました。ユーロ / 円相場は、ユーロ高円安となり、年度末には163.24円 (前年度末145.72円) となりました。日欧金利差に大きな変化がないとの見方等により、ユーロ高円安の展開となりました。

2. 特別勘定資産の内訳 (2023年度末)

(単位：百万円、%)

区 分	アロケーション20a	
	金 額	構成比
現 預 金 ・ そ の 他	442	0.7
株 式	-	-
公 社 債	-	-
外 国 株 式	-	-
外 国 公 社 債	-	-
そ の 他 の 証 券	61,191	99.3
貸 付 金	-	-
合 計	61,634	100.0

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。
構成比は小数点第2位を四捨五入。

3. 特別勘定の運用収支状況 (2023年度末)

(単位：百万円)

区 分	アロケーション20a
	金 額
利息配当金等収入	-
有価証券売却益	155
有価証券償還益	-
有価証券評価益	3,862
為替差益	-
その他の収益	-
有価証券売却損	1
有価証券償還損	-
有価証券評価損	-
為替差損	-
その他の費用	-
収 支 差 額	4,016

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

4. 保有契約高 (2023年度末)

(単位：件、百万円)

項 目	件 数	金 額
変額個人年金保険 (09)	11,027	63,023
合 計	11,027	63,023

(注) 金額は百万円未満を切り捨て。

5. 特別勘定の運用状況

《アロケーション20a》

運用実績 (2024年3月末日現在)		1年	3年	5年	設定来
	騰落率 (%) (注1)		3.57	△4.90	△3.50

(注) 運用開始日は2010年3月2日。

運用方針	主に国内外の国債および主要取引所に上場する債券先物、株価指数先物に分散投資することにより、信託財産の長期的な成長を目指します。 基本配分は原則として日本債券40%、米国債券 (円ベース)17.5%、米国債券 (米ドルベース)2.5%、欧州債券 (円ベース)17.5%、欧州債券 (ユーロベース)2.5%、日本株式10%、米国株式 (米ドルベース)5%、欧州株式 (ユーロベース)5%とし、一定の規律に従いリバランス (注2)を行います。
運用経過および今後の運用方針	資金の流出入に合わせて、「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス (20/80) -2」への投資を行いました。当該ファンドへの投資比率は概ね高位を維持しました。 上記運用方針を継続し、「適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス (20/80) -2」への高位の投資比率を維持します。

(注1) 騰落率は、当月末における、上記各期間のユニットプライスの変動率を表しています。

(注2) 「リバランス」とは、当初決定した基本資産配分に向けて調整をすることをいいます。

お問合せ窓口：カスタマーサービスセンター 0120-933-399

受付時間 月～金 9:00～18:00

土 9:00～17:00 (日・祝日、12/31～1/3を除く)